



TOKIWALK

緑豊かな団地地域を楽しみながら歩き、
人と地域をつなぐ健康まちづくり



TOKIWALK サポーターが利用者にチェックポイントの QR コードの撮影のコツを伝えている場面。

■協働・共創団体の種別

NPO	地縁	社協	学校・大学	企業	行政	その他
-----	----	----	-------	----	----	-----

■協働・共創団体

・千葉大学 予防医学センター 健康都市・空間デザインラボ
・松戸市
・UR 都市機構 計3団体

■事業費

約 600 万円

※サイン・案内板等の設置、LINE アプリ改修、
イベント運営・広報資料作成等を含む概算

■資金調達手段 共同研究費

事業概要

本事業は、松戸市常盤平団地及びその周辺地域を対象に、令和 4 年 10 月から継続して実施している健康まちづくりプログラムです。団地居住者に限らず、周辺地域住民や子ども、子育て世代、高齢者など幅広い世代を対象としています。

主な内容は、地域内 22 か所のチェックポイントを巡る「ウォークラリープログラム」と、「歩幅計測プログラム」です。LINE を活用してチェックインや歩幅の記録ができるほか、スマートフォンに不慣れな方でも参加できるよう、紙の地図や現地サイン、ガイドブックも整備しています。また、体験会やサポーター講座を開催し、住民が利用支援やイベント運営に携わる仕組みづくりを進めています。

本事業は、千葉大学・松戸市・UR 都市機構の 3 者を中心に開始しましたが、団地自治会、地域包括支援センター、市民団体、学校など地域の様々な団体と連携しながら展開してきました。住民は利用者としてだけでなく、イベント運営や地域の魅力の案内役、プログラムの普及役としても参画しています。また、計画段階では住民参加型ワークショップを実施し、参加者の意見を反映してチェックポイントを設定しました。運営段階においても、体験会やイベントを通じて寄せられた意見を継続的に取り入れ、プログラムの改善を重ねています。こうした協働・共創により、3 者を中心とした事業から、地域全体で支え、発展させる健康まちづくりの取組へと成長しています。

協働・共創までの経緯

常盤平団地では、高齢化が進む一方、豊かな緑や公園などの地域資源を健康づくりや交流に生かすことが課題となっていました。そこで、千葉大学、松戸市、UR 都市機構が協働し、住民参加型ワークショップで寄せられた意見を反映しながら、地域資源を活用した健康まちづくりプログラム「TOKIWALK」を開始しました。

主な事業内容(年間スケジュール等)

- ① サイン・チェックポイントの設置(令和 4 年度～令和 5 年度)
- ② 住民参加型ワークショップの開催(令和 5 年度)
- ③ 体験イベント・サポーター講座の実施(令和 5 年度～継続中)

年間スケジュール(令和 7 年度)

4-6 月: 準備期間、7-9 月: 秋のウォーキングイベントの準備・開催、

10-12 月: サポーター講座の実施、1 月-3 月: 春のウォーキングイベントの準備・開催

協働・共創団体内での役割分担

【千葉大学健康都市・空間デザインラボ】

健康まちづくりの研究知見を生かし、プログラムの企画・設計、運営、効果検証を担当。

【松戸市】事業全体の調整、関係機関との連携、広報・普及を担当

【UR 都市機構】団地内の環境整備や住民との調整を行い、団地をフィールドとした事業を推進。

【地域の連携・協力団体・地域住民】自治会や学校、市民団体等がイベント運営や情報発信に協力し、地域住民も企画・運営・普及に参画。

協働・共創事業によって生まれた成果

・協働・共創団体にどのような成長がみられたか

大学・行政・UR がそれぞれの専門性を生かしながら、地域団体や住民との連携を深め、地域の声を反映した事業を継続・発展できる体制が構築されました。

・協働・共創によりどのような相乗効果があったか

3 者の専門性と地域団体・住民の参画が組み合わせることで、多様な主体が活用・運営する持続可能な健康まちづくりへと発展しました。

今後力を入れていきたいこと

○力を入れていきたいこと1

サポーター講座やガイドブックを活用し、地域主体のイベント開催を支援します。

○力を入れていきたいこと2

利用状況を分析し常盤平で得た知見の他地域展開を進めます。

コラボのコツ!!

★コツ 1

地域住民を計画段階から巻き込む

住民参加型ワークショップを実施し、地域の魅力や意見を反映してチェックポイントやプログラムを計画した。

★コツ 2

それぞれの専門性を生かして役割分担する

大学・行政・UR がそれぞれの強みを生かして企画、地域調整、環境整備を担い、継続的な事業運営を実現した。

★コツ 3

地域が主体となる仕組みを育てる

サポーター講座やガイドブックの作成、地域団体との連携を通じて、地域住民が企画・運営・普及に関わる仕組みを構築しました。利用者を支える側へと役割が広がることで、地域全体で育てる取組へと発展しています。

コツに関するコメント

TOKIWALK では、「住民とともに計画し」「それぞれの強みを生かして運営し」「地域が主体となって広げる」という 3 段階の協働・共創を実践しています。行政・大学・UR 都市機構だけで完結させるのではなく、地域住民や自治会、地域包括支援センター、学校、市民団体など、多様な主体が企画・運営・普及に関わることで、地域の実情に合わせて継続的に改善を重ねています。この積み重ねにより、TOKIWALK は地域に根付き、持続的に発展する健康まちづくりの取組へと成長しています。



協働・共創事例プロフィール

【活動開始年】令和 4 年 10 月

【活動の PR 手法】千葉大学ラボ HP、松戸市ホームページ、TOKIWALK ガイドブック、地域配布チラシ、現地サイン、ウォーキングイベント・体験会での案内

【この事業で活用した補助金】-

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】松戸市プレスリリース(令和 5 年 3 月)、常盤平団地自治会新聞「ときわだいら」(令和 5 年 10 月)、ちいき新聞 新松戸・北小金版(令和 6 年 4 月)、松戸市プレスリリース(令和 6 年 11 月)、松戸経済新聞(令和 6 年 11 月)、松戸市プレスリリース(令和 7 年 2 月)、松戸経済新聞(令和 7 年 2 月)※記載内容は掲載歴の抜粋